

「救助犬を育成することが

仕事として成り立つように」

「町から要請を受けるいいものがあるんだよ。」

季節や暑さにもよりますが、だいたい捜索できるのは20分程度になります。距離的には長くても2キロほどになります。例えば認知症の人であれば、同じところを広範囲でグルグルしている場合もあれば、ものすごく長い距離を歩いている場合もあります。そのため犬で発見するよりも、自宅など確実にその人がいたであろう場所から、どちら方面に行ったのかを割り出すことで見つけるきっかけ作りに貢献しています。

「犬が人を探せる距離というのは、どの程度になるの？」

警察犬は事件の凶器を含めた遺留品を見つける必要があるため、犯人の足跡に残った匂いを探り、その足取りを追います。救助犬は人を見つけることが優先ですので、がれきの隙間から出た匂い、山に漂う匂いといった空気中の匂いを追います。そのため、救助犬で匂いを使って人を探す場合でも、体から出た匂いをたどっていくといった違いがあります。

「匂いの追ひ方に違いはあるのですか。」

一方で救助犬は特に犬種に決まりはなく、災害時、例えば地震時にがれきの中といった目視できない場所にいる人を探すと、いうのが一つ、本人の匂いがあればそれを使い行方不明の人を探すということが主な役割になります。

救助犬の頭数が不足

育成継続できる環境づくりが必要

私はボランティア団体の、救助犬育成チームに入っています。そこが広陵町と2年ほど前に協定を結ばせてもらっていて、町内で認知症の方が行方不明になった時に町からの要請を受けて探し出しています。

「作業犬の育成で苦労されていることは。」

私は一人でやっているため、町などから捜索の要請があり、出勤するには仕事を休む必要がでています。ドッグスクールの運営をされる方は、「家庭の犬

「例えば、どのようなことを。」

理想は役場や行政関係などに

「広陵交通公園跡地をどのように利用されているのですか。」

昨年1年間、サウンディングという形で、無料で使わせていただき、主に救助犬や警察犬の訓練を行いました。練習がない時には、しつけ教室なども開きました。今年は町が12月末までの期間、事業者に貸し出されるということで、それに応募させていただきました。

「広陵ドッグスクールでは、普段どのようなことをしているのですか。」

犬の学校として二日お預かりしたり、ご自宅まで出張したりと、一般家庭の犬のしつけを行っています。

他にも警察犬や救助犬としての育成をしています。ですが、そういった作業犬というのは基本的にボランティアになります。

す。訓練に必要な場所を使うための交通費や、依頼を受けた時などの出勤費用などがほぼ実費になっていきます。

「交通公園の特殊な形状は、警察犬や救助犬の訓練に向いているのですか。」

そうですね。救助犬の場合、草むらや建物の影に倒れ込んで隠れている人を見つけた時に吠えて知らせるということを教えています。交通公園ですと周りに住宅がないこと、囲まれたエリアになっているため、犬を放して捜索させ、訓練するのに都合の良い条件がそろった場所になっています。

また公園にある建物の一階部分が土間続きになっていて、犬が中まで入って捜索することができます。中に螺旋のような階段がある特殊な作りになっているので、他では練習できないようなことも可能になっています。

「普段訓練する場所は。」

救助犬に関しては県外にがれき施設を有料で貸し出している場所を使っています。また解体現場で土地所有者が知り合いたった場合に、そこを貸してもらえといったパターンもあります。

「警察犬と救助犬の違いは。」

警察犬は行動力があり、体が大きくスタミナがある必要があるため、シェパードやラブラドル・レトリバーといった大きな犬種になることが多いです。要請を受けた時は、探したい人物の匂いを使い、その匂いの人物を探してほしいという依頼になります。

「それやはりボランティアという形で活動されているのですか。」

「今後、必要なことは。」

町と密に連携を取りながら、救助犬のモデル的な形がどんどんできていけばと思っています。災害が起こった時には募金が多く集まることありますが、その時だけで終わることもあります。ですが、普段から災害時に備えて訓練を続けていく必要があります。そのため、安定して育成が継続できる環境作りが大切になります。



訓練の様子



広陵ドッグスクール

松川浩之代表

クルー

広陵町が同町古寺の「広陵交通公園跡地」の活用事業者を募集し、家庭犬のしつけや救助犬の育成などを手がける広陵ドッグスクール（同町百済・松川浩之代表）への貸し出しが決まった。スクールは今月から公園跡地を活用し、座学と実技を交えた行方不明者捜索犬のセミナーを開催する。「救助犬の頭数は不足している」と話す松川代表に、救助犬の現状と育成の課題、今後の展望などについて聞いた。



広陵ドッグスクールでは家庭犬のしつけや作業犬の育成などを行っている

